

# IPBESアジア・ホアニア地域評価報告書SPMの概要 (2018年)

## A. 人間の福利と豊かな暮らしに自然がもたらすものの重要性

- 豊かな生物多様性・生態系サービスが急速な経済成長を支えてきたが、経済成長は生物多様性に様々な悪影響を与えてきた
- 貧困が根強く残る地域では、人々の生計は自然から得られる食料・燃料等に依存

## B. 生物多様性および生態系サービスのさまざまな傾向と背景要因

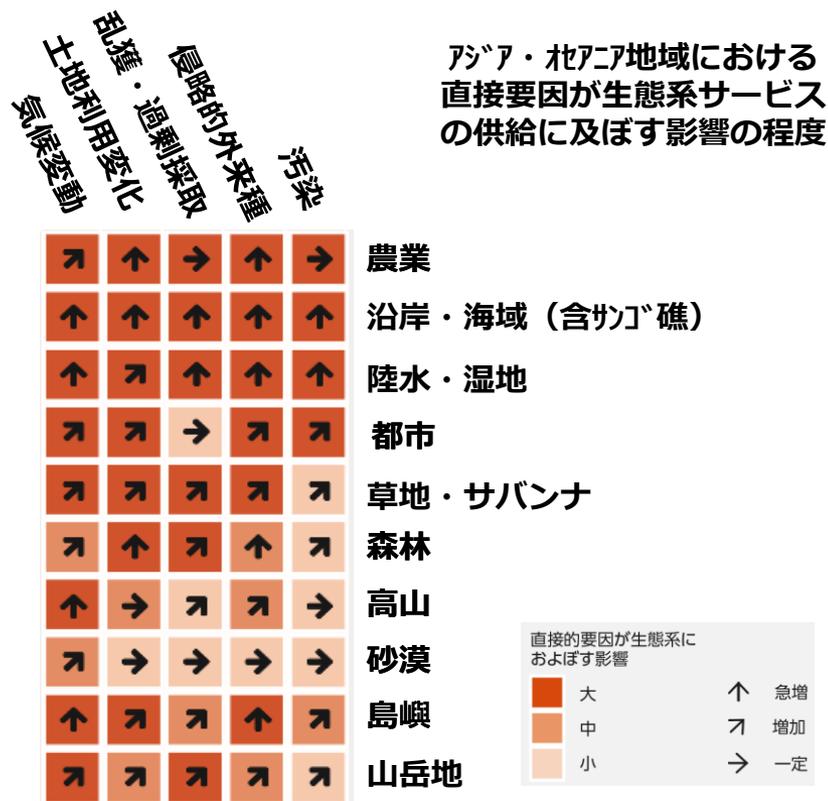
- 主要生態系が脅威にさらされ全体的に劣化
- 森林面積は東南アジアの減少が顕著（ヤシ油、木材製品等の輸出拡大に起因）、その他の地域では増加傾向
- 保護地域は拡大したが、生物多様性保全上重要な地域の多くが保護されていない
- 漁業資源やサンゴ礁が危機的状況

## C. 生物多様性減少の影響と自然の寄与を維持していくための機会

- 直接要因：気候変動(海面・気温上昇等)、土地利用変化(農地への転換等)、乱獲(過剰漁獲等)、侵略的外来種、汚染
- 直接要因と間接要因(社会経済変化、人口動態、政策等)の相互作用への理解が重要
- 間接要因の影響がより顕著に

## D. 国際目標の達成に向けた政策、制度枠組みおよびガバナンスのオプション

地域コミュニティの参加、主要開発セクターにおける生物多様性保全の主流化、生態系を基盤とするアプローチの活用、民間企業とのパートナーシップ強化、地域内連携の強化等



出典：IPBESアジア・ホアニア地域報告書政策決定者向け要約  
図SPM.7より抜粋